

## 自然のしくみを学ぶ

校長 八木澤 龍馬

朝夕だけでなく日中も涼しさを増し、秋を感じるようになりました。市内の田んぼの稲刈りもそろそろ終わるようです。給食では、さいたま市西区で収穫された新米が献立にのりました。恵み多い季節の到来です。

さて、右の画像は、印刷では見づらいかもかもしれませんが、本物のスズメバチの巣です。

理科観察実験支援員の荒木先生が、秩父市内で採取したものを貸してくれました。冬、はたらき蜂が短い一生を終え、女王蜂が越冬のため巣を離れた後、空き家になったものを採取するそうです。高さ50cm、横幅40cm、殻の厚さ5cmで、内部の巣盤は8階層もあります。右下のアシナガバチの巣と大きさを比べてみてください。画像の縮尺はほぼ等しくしてあります。アシナガバチの巣は、通学路付近から除去してきたものです。スズメバチの巣とともに、校内の2階渡り廊下に展示してありますので、ご来校の折には、ぜひ、ご覧ください。



秋になるとスズメバチによる被害のニュースが報道されるようになりますが、今回は、スズメバチの生態と、被害を防ぐコツが話題です。

9月から10月にかけて、スズメバチの巣は、来年の女王候補と雄バチの育成が終盤に入っています。はたらき蜂の数も充実して、狩りに出るものと巣を守るものの役割分担もすっかり整っています。このことが、刺される被害が秋に集中する理由で、被害は巣の周辺で発生します。

巣では門番が警戒しており、気づかず巣に近づくと、門番がまとわりついてきます。ふり払おうとすると、門番から攻撃をうながすフェロモンを浴びせられ、他の個体も反応して、一斉に攻撃されるのです。まとわりついてくるスズメバチに気づいたら、怖いですが、大きな声を出さずに、あわてず静かに、その場から離れるのが賢明です。

校舎内に入ってくるスズメバチも、秋に多くなります。空いた窓から入ってきますが、狩りの途中なので、ほとんどは、反対側の窓から通り抜けていきます。教室や廊下にいた場合、あわてず静かに、電気を消し、窓を大きく開けてやると、明るい出口を見つけて飛び去ります。ただし、校内で営巣している場合は要注意で、関係機関と連携して、除去することになります。校内に限らず、巣は、梅雨時までの小さいうちに見つければ、除去しやすいそうです。もちろん、ハチの対応は、教職員が行います。児童には、9月26日の朝会で、ハチを見つけたら、あわてず静かに、すぐに先生に知らせるよう話しました。キーワードは、「あわてず静かに」です。

今年は、地震、豪雨、台風などの災害が多く、自然の恵みよりも怖さの方が勝ってしまいました。しかし、日本の歴史上、文化の発展は、この自然と切り離して考えることはできません。私たちの暮らしは、雨がもたらす豊富な水と、多様な生態系がつくる豊かな自然との共存で成り立ってきたものだからです。スズメバチの生態を理解して、被害を防ぐことなど、自然のしくみを勉強することによって、生活に生かせることがたくさんあるようです。